

1. 下顎骨体部骨折で、骨折の状態が最も分かりやすいX線撮影法はどれか
 - a. Towne法
 - b. Waters法
 - c. 頬骨軸位法
 - d. Fueger I 法
 - e. オルソパントモグラフィー

2. 下顎骨関節突起骨折の骨頭転位に関与する筋肉はどれか

- a. 側頭筋
- b. 咬筋
- c. 外側翼突筋
- d. 内側翼突筋
- e. 顎二腹筋

3. 誤りはどれか

- a. Le Fort II 型骨折では骨折線が眼窩内を通る
- b. Le Fort III 型骨折では骨折線が眼窩内を通る
- c. Le Fort II 型骨折では上顎歯列弓が一塊として動く
- d. Le Fort III 型骨折では上顎歯列弓は一塊として動かない
- e. Le Fort II 型 + III 型の合併骨折は Le Fort II 型 + 両側頬骨骨折である

4. 正しいのはどれか

- a. 上顎骨の歯槽骨骨折は臼歯部に生じやすい
- b. 上顎骨骨折の診断にはCT画像が有用である
- c. 上顎骨の矢状骨折は単独に生じることが多い
- d. 上顎骨骨折の治療は非観血的には不可能である
- e. 上顎骨骨折の観血的治療は受傷後緊急手術で行う

5. 頬骨と接しない骨はどれか

- a. 篩骨
- b. 側頭骨
- c. 前頭骨
- d. 蝶形骨
- e. 上顎骨

6. 眼窩骨折で可及的早期手術の 適応はどれか

- a. 内側壁の広範な骨折
- b. 血性鼻汁が続く内側壁骨折
- c. 下直筋の絞扼を伴う下壁線状骨折
- d. 眼窩下神経障害のある下壁打ち抜き骨折
- e. 複視を伴う、内側及び下壁打ち抜き骨折

7. Angleの分類において、上顎第一大臼歯の近心頬側咬頭が、下顎第一大臼歯の頬面溝に接触して咬合する場合、次のどれになるか

- a. class I
- b. class II division 1
- c. class II division 2
- d. class III
- e. class IV

8. 正しいのはどれか

- a. 皮質を含めた腸骨を採取する場合は、おもに外板から採取する
- b. 肋軟骨採取後には、採取レベルの肋骨部において側方への突出変形が起こる
- c. 大腿筋膜を採取する場合、筋膜上を走行する内側大腿皮神経の損傷に注意する
- d. 耳介軟骨を採取する場合は、おもに対耳輪部分から採取して耳介形状の変形を防止する
- e. 下顎骨から骨採取する場合はオトガイ前面から採取する

9. 頭蓋形成術の手術術式でないものはどれか

- a. Fronto-orbital advancement
- b. Suturectomy
- c. Total cranial reshaping
- d. Floating method
- e. Le Fort I osteotomy

10. 顔面神経麻痺の再建術でないものはどれか

- a. 側頭筋移行術
- b. 遊離広背筋移植術
- c. Tennison-Randall法
- d. 顔面交差神経移植術
- e. Kuhnt-Szymanowski法